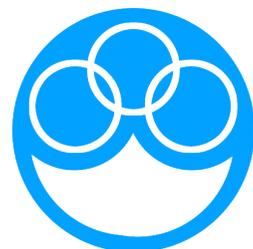


たばこの健康影響評価専門委員会
2013年10月7日資料

たばこの健康影響評価に 関する追加資料



独立行政法人国立がん研究センター
がん対策情報センターたばこ政策研究部
望月友美子

1. 無煙タバコ（スヌースを含む）に関する日本学術会議の提言（参考資料1）

2. たばこと各種疾病との関係について国内外の知見のまとめ

3. たばこの含有成分に関係した法令のまとめ（参考資料2）

1. 無煙タバコ（スナースを含む）に関する日本学術会議の提言

(参考資料1)

提言

無煙タバコ製品（スナースを含む）による
健康被害を阻止するための緊急提言



平成25年（2013年）8月30日

日本学術会議

健康・生活科学委員会・歯学委員会合同

脱タバコ社会の実現分科会



「脱タバコ社会」を実現するために

1. 作成の背景

我が国では、国際条約である世界保健機関 (WHO) たばこ規制枠組条約 (FCTC) への批准を契機に、紙巻タバコによる健康被害は国民に広く認知され、喫煙率・消費量ともに先進国に近づきつつある。しかしここに来て、諸外国に見るような煙の出ない無煙

緊急

提言

3. 提言等内容

■国はFCTCの各条項を速やかに履行し、無煙タバコ製品も健康影響評価の対象とすべきである。■「受動喫煙」対策を見直し、製品規制の所轄官庁を明確にし、各省庁の協調体制を整備すべきである。■国はFCTCに基づき、すべてのタバコ製品につ

(新発売) J.T.のゼロスタイル・スナース

(2013年8月、大阪限定発売)



※無煙タバコである「スナース」は、湿性の嗅ぎタバコでスウェーデンで開発され、J.T.により現地生産され輸入されている。

タバコの使用が増加傾向を示し、日本たばこ産業株式会社 (JT) は新しい無煙タバコ製品 (スナース・タイプ) の販売を開始した。

2. 現状及び問題点

無煙タバコによる健康被害は紙巻タバコと同様であるが、害が少ないとの誤解を生む。無煙で安いため、未成年などが使いやすく、喫煙への誘導作用を持つ。注意文言が本体容器には記載されず、使用時に健康被害を認識させづらい。

スナースなどの、「無煙タバコ」製品による健康被害を阻止する。

いて諸外国で導入されている画像付き警告表示、広告、販売促進活動の規制を強化すべきである。■また国民に対しては、無煙タバコを含むすべてのタバコ製品の中止を促すべきである。■無煙タバコが禁煙補助剤の代替物にならないことを伝え、正しい禁煙法の実践を推奨すべきである。■そのために無煙タバコによる口腔内病変を早期に検出し、いかなるタバコ製品についても使用中止に導くための関係者のコンセンサスと医療インフラの構築が必要である。

無煙たばこ・スニースの健康影響について

平成25年8月より一部の地域において新しい形体のたばこ製品・スニースの販売が行われており、日本学術会議よりスニースの使用による健康影響を懸念する「無煙タバコ製品（スニースを含む）による健康被害を阻止するための緊急提言」が公表されています。

スニースの使用は、幼小児の誤飲を含めた種々の健康影響が懸念されることから、以下に健康影響に関する情報を提供します。

○ **「スニース」とはどのようなものですか？**

「スニース」は、加工したたばこ葉を入れた「ポーション」と呼ばれる小袋を口に含み上唇の裏にはさんで使用する無煙たばこの一種です。

○ **「スニース」とはどのような健康影響があるのでしょうか？**

「スニース」には、ニコチンだけで無く、「たばこ特異的ニトロサミン」などの多くの発がん性物質が含まれています。そのため、使用により口腔がんなどの原因となるほか、歯周疾患を引き起こし、循環器疾患のリスクも高める可能性があります。また、紙巻きたばこの安全な代替品とはならないことが、指摘されています。

○ **健康上の注意点**

「スニース」は、前述のように通常の紙巻きたばこと同様に様々な健康リスクを高めるとともに、依存性を生むことが指摘されています。また、「スニース」は、使用が分かりにくく青少年を含めた非喫煙者の喫煙誘導（ゲートウェイ）になる可能性が指摘されています。さらに、「スニース」の容器は、菓子等と見間違えような外装で、ポーションは小さく異物とは認識しがたいため、幼小児が容易に誤って口に含み、誤飲・誤用が発生することが懸念されています。

○ **国際的な動向について**

「スニース」を含む無煙たばこは、国際がん研究機関（IARC）により、グループ1：（ヒトに発がん性があるもの）と分類されています。

EU欧州連合加盟国では、公衆の健康に脅威であるとして、スウェーデン以外において販売が禁止されています。

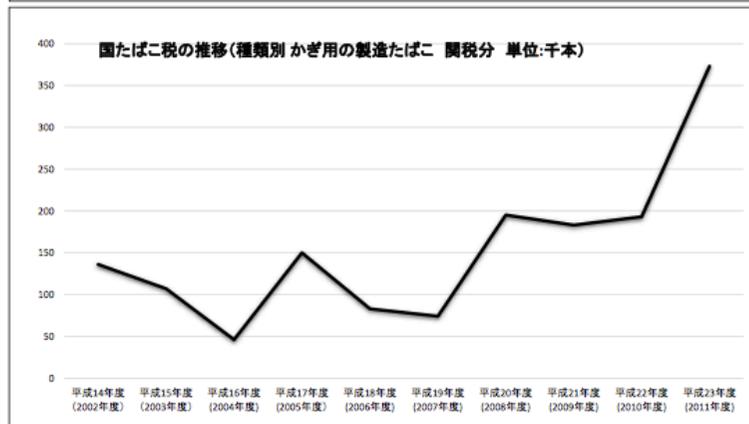
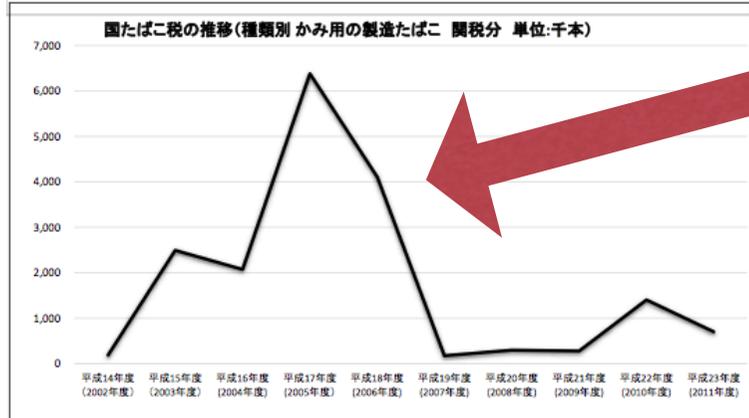
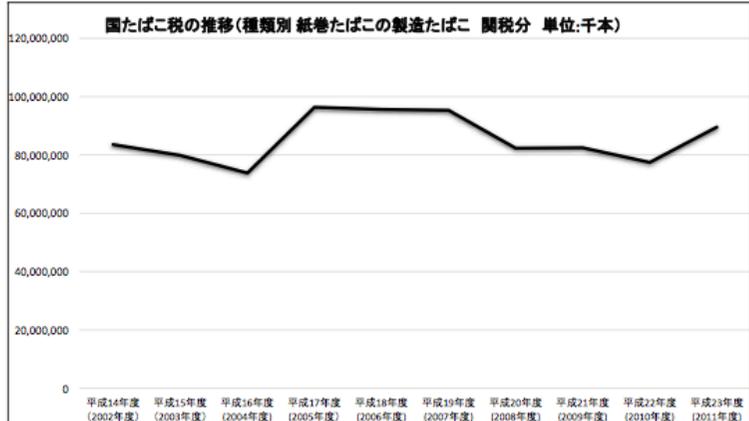
参考文献

1. 日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会。「無煙タバコ製品（スニースを含む）による健康被害を阻止するための緊急提言」。
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t177-1.pdf> [968KB])
2. IARC Monographs on Evaluation of Carcinogenic Risks to Humans, Volume 89, Smokeless Tobacco and Some Tobacco-specific N-Nitrosamines, Lyon, France, 2007.
(<http://monographs.iarc.fr/ENG/Monographs/vol89/mono89.pdf> [3,253KB])
3. European Commission, Health & Consumer Protection Directorate-General, Scientific Committee on Emerging and Newly Identified Health Risks (SCENIHR), Health Effects of Smokeless Tobacco Products, 2008.
(http://ec.europa.eu/health/ph_risk/committees/04_scenihr/docs/scenihr_o_013.pdf [1,363KB])

資料5 国たばこ税からみた様々なタバコ製品の「輸入量」の推移 [12]

-かみ・かぎ用は紙巻の本数換算 (2gを1本に換算)

出展: 国税庁ホームページ統計情報(ホーム>活動報告・発表・統計>統計情報 <http://www.nta.go.jp/kohyo/tokei/kokuzeicho/tokei.htm>)



2003年に登場した ガムたばこに対する 日本学術会議および 厚生労働省等の対応



報告

ガムたばこの蔓延阻止に向けて - 禁煙から脱たばこへ -

平成17年7月21日

日本学術会議
口腔機能学研究会
齶歯学・歯周病学研究会
咬合学研究会

(照会先)
健康局総務課生活習慣病対策室
担当者: 太田、平戸 (内2348、2971)

ガムたばこと健康に関する情報について

現在、ガムの形状のたばこ(ガムたばこ)が試験的に販売されており、たばこ事業法上のたばこ製品として取り扱われています。「ガムたばこ」は、「たばこ」であり、健康への影響が懸念されること、小児の誤飲などが考え得ることから、健康増進の観点から、以下に健康に関する情報を提供します。

- 「ガムたばこ」とはどのようなものでしょうか?
「ガムたばこ」は、「かみ(噛み)たばこ」の一種であり、煙の出ないたばこです。「かみたばこ」には、一般に、甘味料や香料が加えられています。
- 「ガムたばこ」は、どのような健康への影響があるのでしょうか?
「ガムたばこ」は、形態として「かみたばこ」の一種です。「かみたばこ」については、紙巻きたばこによる喫煙と同様に、さまざまな健康への悪影響や依存性が指摘されています。
- どのようなことに注意すればよいのでしょうか?
上述のように、「かみたばこ」は、紙巻きたばこによる喫煙と同様に、さまざまな健康への悪影響や依存性が指摘されています。また、「ガムたばこ」は、形状がガム状であることから、小児における誤飲など一般のチューイングガム等との誤認による摂取、未成年者の使用、禁煙補助剤との誤解等が懸念されます。さらに、「ガムたばこ」は噛んだ後に、紙などに包み、小児の手の届かない所に捨てるなど、使用者は他者が再摂取することの無いように注意することが必要です。

2. たばこと各種疾病との関係について国内外の知見のまとめ

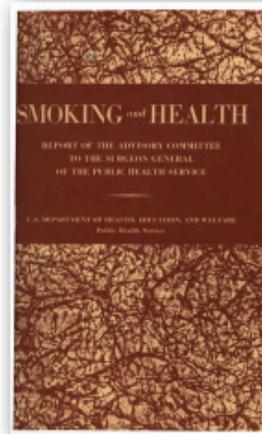
再掲

圧倒的な科学的証拠と徹底的な因果関係の評価 科学から政策への「橋渡し」

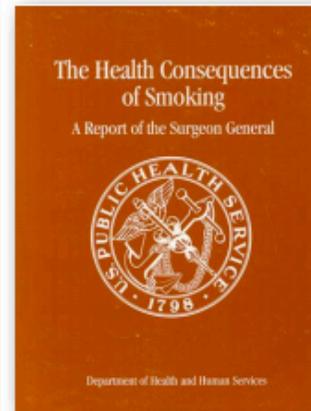
米国保健省
公衆衛生総監報告書

「因果関係～メカニ
ズムの推論」

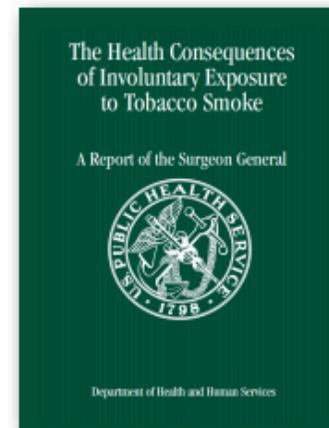
CDC Office on
Smoking and Health



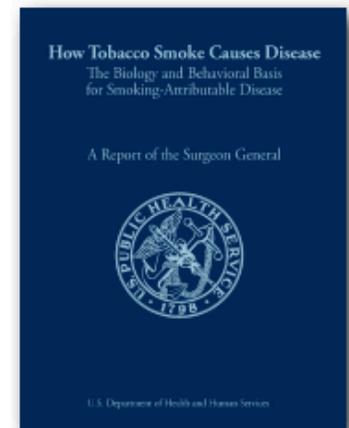
1964年第1巻
「因果関係の推論」



1964年第1巻から40年後
2004年910p



1986年359pから20年後
2006年709p

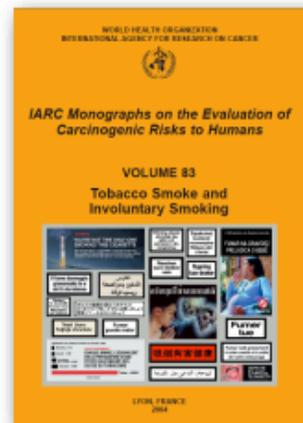


1964年第1巻から30巻目
2010年704p
「メカニズムへの言及」

**“Science is clear.
Debate is over”**

世界保健機関
国際がん研究機構
(IARC)モノグラフ

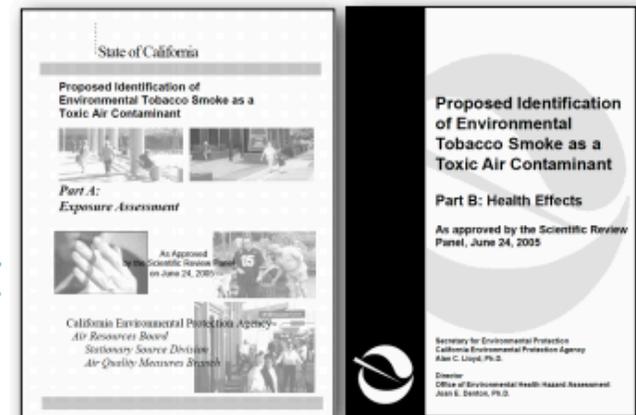
「たばこ煙は、
グループI (ヒト)
発がん物質
～閾値なし」



2004年第83巻1452p
(1985第37巻291p、1986第38巻421p)

カリフォルニア州
環境保護局(EPA)

「たばこは、
有害大気汚染物質
～閾値なし」



2005年250p + 526p

Austin Bradford Hill, "The Environment and Disease: Association or Causation?,"
Proceedings of the Royal Society of Medicine, 58 (1965), 295-300.

The Environment and Disease:
Association or Causation?

By Sir Austin Bradford Hill CBE DSC FRCP (hon) FRS
(Professor Emeritus of Medical Statistics, University of London)

Hill (1897-1991) の因果判定9基準 (1965) を 米国公衆衛生総監報告書 (2004) が再構成

- 1.Consistency 人、地理、時間的な一貫性
- 2.Strength of association 関連の強さ
- 3.Specificity 関連の特異性
- 4.Temporality 時間的な前後関係
- 5.Coherence、Plausibility、Analogy 科学原則に矛盾しない、生物学的メカニズムや生態データに一致
- 6.Biological gradient (Dose-Response) 用量反応関係
- 7.Experiment 実験に基づく証拠

Implications of a Causal Conclusions

因果関係の結論がもたらす意味

- 喫煙がある疾病の原因であるという判断を下すことは、その疾患を予防する（しなければならぬ）という意味を直ちにもつ。
- 因果関係の結論に達した場合、即座で適切な次の段階は、喫煙防止と禁煙支援により回避できる疾病負荷を推定することである。